

2020年6月度 検査結果の概要

簡略な説明のため、必要に応じ個表を参考にしてください。

* 放流水等水質調査結果【(1)表】

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500~700 以上、分けつ期 700~1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4~8月限定)	110~180	脱塩運転をしています。利水期ですが、問題ありません。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.5 未満~3.1	処理目標値以下で、問題ありません。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	1~3	処理目標値以下で、問題ありません。
有害物質等 (mg/l)	カドミウム、シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀等の有害金属の調査。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは処理目標値未満の異常のない数値。	処理目標値以下で、問題ありません。

自動測定をしている第1期・2期処分場の地下水モニタリング3箇所と第3期処分場の地下水(シート下)を含めた2箇所のモニタリング計5箇所での水質測定結果

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。	6.1~7.2	従来と変わりなく、問題ありません。
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いほど数値が大きい。	0.3~0.7	従来と変わりなく、問題ありません。

* 公共用水域水質調査結果【(2)表】

エコパーク下流の、古志茂橋(中田川)と島崎川の3箇所同日に採水したものです。また古志茂橋の上流で合流している生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ上流、及び下流から採水しました。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	5~12	梅雨の時期で、通常より高い値になっていますが、問題ありません。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500~700 以上、分けつ期 700~1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	23~87 生活排水 21	利水期ですが、問題ありません。生活排水も問題ありません。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	1.6~2.1 生活排水 1.3	従来どおりの値で、特に変化はありません。生活排水も問題ありません。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。	0.74~1.3 生活排水 0.88	従来どおりの値で、特に変化はありません。生活排水も問題ありません。同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も従来と変わりません。
全磷 (mg/l)	島崎川3箇所調査しました。	0.091~0.12	問題のない値でした。

今回の測定で、生活排水の影響は見られませんでした。

＊ ダイオキシン類調査結果【（３）表】

第１期・第２期処分場の３箇所モニタリング及び第３期処分場の２箇所モニタリングを含めた計５箇所の地下水とエコパークの最終排水に含まれるダイオキシン類を調査しました。

調査結果：いずれも基準以下で問題のない数値でした。

＊ 発生ガス調査結果【（４）表】

埋立物から発生するガスを調査する為、処分場内のガス抜き管から直接ガスを採取しその濃度を調べたものです。

（調査地点は、第１期処分場と第２期処分場との分岐地点及び第３期処分場中間部です。）

調査結果：第３期処分場での硫化水素の値が290volppmと高い値でしたが、測定後脱臭装置を取り付ける事により、不快臭気がないことを確認し、自主簡易検査においても硫化水素が0.25ppm未満である事を確認しています。

また、メタン、一酸化炭素、二酸化炭素、アンモニアは従来の数値と大きな変化はなく、問題ありませんでした。

＊ エコパーク施設排出物調査結果【（５）表】

水処理施設から排出される、脱水汚泥から溶出する有害金属等を調査したものです。

・判定基準値以下の問題のない数値でした。

＊ 処分場の埋立進捗状況

第3期最終処分場（埋立処理能力937,400m³）への埋立量は、6月の埋立量約11,712m³で累計埋立量が約194,708m³（約20.8％）となりました。